

足立税務署長賞

「家族を支えてくれた税金」

足立区立 蒲原中学校

三年 山本 優花

税金は、国民の「健康で豊かな生活」を実現するために必要な活動の財源である。この税金がなければ公共サービスを受けるのに、すべて自己負担しなければならなくなる。そのため皆が豊かで安心して生活していくために税金はとても大きな役割がある。私がそう感じるきっかけとなったのは「父親の介護」だった。

私が中学一年生の時に父親が病気で亡くなった。父は最期を過ごす場所として自宅を選択した。このことによって私たち家族の生活が一変した。私は自宅で父と過ごすことはとても嬉しかったが、母の負担が大きくなることを容易に感じていた。母は働きながら帰宅すると父の介護もしていた。休む間もなく仕事に行くことも度々あった。父が働けない分、母が働かなければ私たち家族は生活ができない。もちろん中学生の私や小学生の弟はお金を稼ぐことはできない。家族みんなが色々な不安を抱えていた。そこで母は家族のことを考えて介護休業を取得した。この制度の介護休業給付金によって私たち家族は普段通りの生活を送ることができた。これにより母への負担が軽減した。

もし、税金制度がなく私たち家族が様々な支援を受けることができなかったらどうなっていただろうか。私もできる限り母と協力して家事や父の介護を手伝っていたが、いつかは体力的、精神的に限界が来ていたと思う。よく「なぜ税金を払わないといけな

いのか」と税金に対して嫌悪感を抱く人がいるが私たち家族は税金から頂いた支援のおかげで父の望んだ最期を自宅で看取ることができた。とても感謝している。

納税は、国民の三大義務であるが「高い」「払いたくない」という思いが強いイメージがあり、増税の法案が通る度に反対運動が起きている。なぜそのような事態を招くのか。自分たちが納めた税金の細かな用途を理解していないため、税金によって充実したサービスが受けられることを当たり前のように認知され、有難みを忘れていく気がする。

税金は「国民を豊かにしてくれている」と私は思う。なぜなら今、私は何不自由なく生活できているからだ。日本は当たり前のように道路は塗装され信号もあり、交通整備が進んでいる。海外を見てみると塗装されていない道を車や自転車が通り、すぐにでも事故が起きそうな状況にある。普段の生活をしていると忘れがちであるが日本では当たり前のことでも他国では特別であることを消して忘れてはいけない。

私も社会人となり、納税する側になる。今回の「父親の介護」をきっかけにより税金によって助けられる人が大勢いるという思いを忘れずに社会を支える、支えられる人でありたいと思う。